

みんなで「あつまり」「つながり」
「活躍する」ためのホットな情報
をお届け！

発行：甲府市協働支援センター

探究授業で協働の地域づくりを学ぶ



連携

甲府市 山梨英和高校

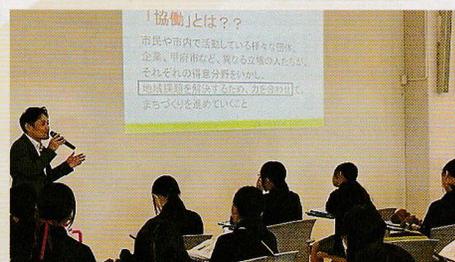
山梨英和高校の探究授業で、『地域づくりを学び地域力を育む』をテーマとした講座を実施しました。1年生約80人が参加したこの講義では、地域活動の取組や必要性を紹介し、人口減少や少子高齢化などにより、活動の担い手不足を始めとした地域課題を共有し、今後の地域への関わり方を考えてもらう機会としました。

今回の探究授業は山梨英和高校と甲府市が連携し、探究課題のテーマ設定を考える素材の一つとして『地域づくり』にフォーカス。市協働推進課職員が講師となり、「人口減少」「デジタル化等の進展と人とのつながりの希薄化」「価値観の変化」に触れながら、参加者には、学生・子育て・高齢者世代など様々な世代の立場に分かれ、それぞれの視点からどうすれば地域活動に参加しやすくなるのかワークショップ形式にて意見を出し合いました。

生徒の感想 他人事ではなく自分事として捉える

生徒の皆さんからは地域活動の必要性を理解し、『他人事ではなく、将来の自分のことを想像して考えることができた』や『地域活動に関わるために何をすべきか考えるきっかけになった』との感想が多く寄せられました。また、中学生や若者、高齢者などの各世代の立場になって地域を考えることで、『高校生として地域や高齢者の方でできることとは何かを考えるきっかけになった』などの意見がでました。

地域活動を持続可能なものとして、将来の世代に住みやすいまちとして残すためには、地域に住む人や地域に関わりのある人など様々な世代が協力し合いながらまちづくりをしていくことが求められるようになってきています。今回の講座を通じ、高校生の皆さんならではの視点やアイデアを活かし、今後の地域活動への参加につなげてください。



山梨ことぶき勸学院
出前講座

シニア世代が今の若者世代に身を置いて考える

山梨ことぶき勸学院にて「協働によるまちづくりの推進」をテーマにした出前講座を実施しました。講座では、1960年代の地域コミュニティと現在の地域コミュニティの違いに着目して、シニア世代の皆さんが経験した1960年代のコミュニティである『支え合いの社会』を現代の地域活動に活かす方法を考えました。ワークショップを通して意見を交わした結果、次のようなアイデアが出されました。

- 地域でスマートフォン教室を開催し若手とシニアが交流する
- 地域の子供たちの保育園への送り迎えをシニアが行う
- 地域活動の非効率なところを見直し、現在に合った形に変える
- オンライン会議で地域活動への参加負担を減らしていく

参加された学生の皆さんは、これまでの経験とアイデアをまちづくりに活かしていきましょう。



▲ワークショップで意見を出し合う学生の皆さん